

わざと

セクハラに期待して

無抵抗な選択肢を選ぶ

ゲームブック

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

最近変な噂があります
バックネットの裏から変質者が覗いてきて
自分は監督だとか先生だと言っているんです
変な人を見かけたらすぐに
職員室に知らせに来てくださいと
教えられました

どんな人が見てくるんだろう
あんなところから覗いて何をするんだろう
もしかしたら本当にどこかの先生なのかも
私は先生に最後の片付けを頼まれて
体育倉庫の鍵を預かりました

体操服に着替えながら
窓から校庭を眺めました

変質者の人に
会ってみたい

変質者の人に
気をつけなきゃ

自主練習が終わったあと
カラーコーンを片付けていた時に
声をかけられました

他の先生はいないのか、今何をしているのか聞かれました

先生は職員室にいて
今は使った道具を体育倉庫に
片付けている途中で
と答えました

荷物を置いて気をつけの姿勢をとれ
と言ってきました

気をつけをする

変質者の気を引けるかも…

そんな悪い事を考えながら
下着を脱いで素肌に直接
体操服を着ました

着替え終わった自分の胸元には
よく見れば気付かれてしまうような
突起が浮かび上がっていました

校庭に出る

バックネットの裏から
私を見つめてくる男の人がいました

この人がそうなのかな…
私は立ち止まってみました

あつ…こっちに来ようとしてる…
どうしよう…?

体操服を引っ張って
乳首を目立たせてみる

近づかれるのを待つ

そのまま気をつけの姿勢を続けて
と言われました

なんだか近いです…
首筋に生暖かい息が当たります

振り向く

言うことに従い続ける

「胸が腫れてるぞ、診てやろうか？」
と心配するふりをして
乳首を触ろうとしてきました

そんな見え透いた
ウソをついてまで…

呆れてしまいました
本当に心配してく
れているのかも
しれません…

むげに拒絶したら
親切心を
傷つけてしまうかも

そうなんです…ここを
いっぱい虫に
刺されちゃいました…

何も言わない

堂々としてれば
気付かれないはず

まだ…バレてないよね？

え…？
準備体操の指導？
ですか…？

指導してもらおう

えっ？
え…？
これって…
私…変なこと
されてるんじゃない？

私…
本当にこのまま…

言うことに従っても
大丈夫なのかな…

それでも
言われたことに
従い続ける

おじさんの指が
私の胸の先端をなぞりました

ほんの少し
触られただけに
身体中に電流が走りました

白い声を出してしまう

やめてください…

私の体を直接触るのをやめて
体操服を引っ張ってききました
胸の先を
何度も擦り上げられて…

乳首が少しずつ
固くなってきた…
だめ…戻って…
そう思っても体は勝手に
反応してしまいます

思わすうっとりした表情をしてしまう



おじさんは服の上からカリカリと引くように指を動かしたり、優しく揉み込むように触ってきました。最初は怖かったけど、だんだんもつとしてほしい気分になってきて…

「あそこにある倉庫の中で、もっと楽しいことをしよう」と誘われました…

体育倉庫へ一緒に行く
(最後のページへ)

「あは…
本当は…女です、私…
えっと、ほら、胸もありますから…
だから…その、触らないでください…」

「恥ずかしい
ですから…」

「こんなことをするのは…
見せるのも
あなたが初めてです…」

「こんなことは
普段しません…」

「も、もう恥ずかしいから
隠していいですか？」

信じてもらえないので
触って確かめてもらう

おじさんの指が
何度も往復しています…
私の中の入口を探して…

怖くて、緊張して、
足の間に力を入れて
異物の侵入を拒んでいました

でも…

こうなるまでさせてしまった
自分も悪いので
気が済むまで触らせ続ける

まだ…バれてないのかな…？
消えたいくらいの恥ずかしさと、
いたずらが成功した嬉しさのようない
そんな気持ちが混ざった
感覚になりました

私は思わず笑って
しまいました

それがどう受け取られるかも
分からずに…

「服を脱いで確かめさせて」
汗まみれの笑顔で凝視されて、
自分の過ちに気づきました
(最後のページへ)



体育倉庫の片付けを 口実にして逃げる



体育倉庫の前まで 移動する



大急ぎで体育倉庫に 走って逃げ込む

わざとゆっくり 体育倉庫に逃げ込む



体育倉庫の 中に逃げる



パンツを確認すると
ヌルヌルに濡れてしまっています
体育倉庫の中なら誰にも見られないし
脱いで乾かしてもいいよね…?



乾くまで待っていると
入口の隙間から
覗かれているような
気配がしました

もしかして
さっきのおじさんかな…?

疑念を抱きつつ
お尻をさりげなく隠しました
どうしよう…

もし今入ってこられたら
大変なことになっちゃう…
扉に鍵をかけておかなきゃ…

もっと覗かれないから
気付いてないふりをする

乾かないパンツを高いところに干すフリをして
おじさんにお尻を見せてしまいました
これでもっと
よく見えるかな…

おじさんの目が
私のあそこを見ているのを
想像して、頭が真っ白に
なるくらい興奮しました
もっと…もっと見て…♡

私はつま先立ちになり
お尻をさらに
高く掲げました

そのとき、入口の扉が
静かに開く音がしました

何も聞こえなかった
ふりをする

倉庫の入口扉のほうから
なんだか視線を感じます

(覗かれてる!?)
(あの人…やっぱり私のおっぱい
見れて嬉しいんだ…♡)

私はお芝居をする
ことにしました

「やだ…走り高跳びの
台に体操服が
引っかかった…
取れないよあ…」

もっと見て…
わたしのおっぱい…

やっぱり怖いので
扉を施錠しに行く

おじさんは
今まで先生がった態度をしていましたが
もう本性を隠そうともしないで
私のおっぱいに吸い付きしました
大人が子どもの私のおっぱいを
赤ちゃんみたいに吸うなんて…と思いました

おじさんが幸せそうに
おっぱいを吸っているのを見て
何も言えなくなりました

引き寄せ
イタズラ
させて
あげる

おじさんと一緒に体育倉庫に入りました……そこで……

本当の検査が始まりました
おじさんに指示されるまま
跳び箱に座らされて
足を広げて腰を突き出しました

おじさんの指が
ハーフパンツの中に
沈み込んでいきます

おじさんは大真面目に
私の身体を調べていました

おじさんの
気が済むまで
検査してもらおう

これでおじさんが満足してくれば
レイプされないで済む……
私はその提案を受け入れました

私のあそこを見ながら
おじさんはおちんちんを
擦っています……

そして白いおしっこを
パンツに吐き出して
逃げてしまいました
私は汚されたパンツを
なぜか捨てられずに

そのまま履き直して
家に帰りました

こうして私はレイプ
されずに済みました
——でも……あの時、
無理やり寝われてたら
どうなったんだろう
レイプって……
どんな感じなんだろう
(最初に戻る)

イタズラされることの
気持ちよさを、たっぷり
教えてもらえました
BAD END?

全て受け入れました

後ろから手が
伸びてきて
体操服の上から
スリスリと
乳首をなぞられました
何度も
何度も
固くなっていく
胸の先端を
確認するように
何度も……

私は何も言わず
される行為を、

体操服のぶわぶわした生地の中はおじさんは頭を
潜り込ませておっぱいを吸い始めました

大人が子どもの私にこんな姿を見せるのは
きつとも恥ずかしいはずなのに……
私のことを甘えさせてくれる人だと思
ってくれたからでしょうか

誇らしいような、
守ってあげなきゃいけないような
気持ちになりました

好きだけ
おっぱいを
吸わせて
あげる



突然扉が開く音がして後から
羽交い締めにされました

自由を奪われて…
目も塞がれて…
私…レイプ
されてる…!!

…知らなかった

危険な時間、危険な場所に
レイプされるのを期待して
出歩くのが趣味になりました
HAPPY END?



おじさんは
私の嘘を見抜いて
鍵を奪い取って
倉庫の扉を開けました

「嘘つきにはおしおきた」

そう言って私を奥の棚に
押し倒してきました

大人の男の人の体重をかけられて
身動き一つできなくて苦しいです

ハーフパンツに硬いものが押し付けられて
服が裏返ってる部分が
ヌルヌルになってます…

薄めたスライムみたいな
ものが服の向こうから
染み込んでいきます…

必死に
抵抗する



パンツまで脱がされてしまいました

ぬるぬると泡立った布から伸びた粘液が
私のおそこの中まで繋がっていました

それはまるで
ナメクジが這った
跡のようで…

嫌悪感を
おぼえました

それなのに私は
汚された自分のパンツから
目が離せませんでした

そんな私に
おじさんが提案をしてきました
「病気がもしれないから
薬を出してあげる」

おじさんの
提案を受ける



突然力強く抱きしめられて
キスされてしまいました

ファーストキスだったので
びっくりしてしまいました
この人がしたいと思ってるなら…と
私からも唇をのばしました

これが…
はじめてのキス…

この人が私の
はじめての人…

お腹の奥が
ムズムズする…



体の力を抜く



我慢できず泣いてしまう





私が泣き出すと
おじさんが躊躇ったのか、少し力を緩めました
その際に私は出口に突き進みました

扉まで辿り着いた時、
おじさんが追いかけて
こないことに気付きました

おじさんは私を
苦しめるつもりはなくて、
一緒に気持ちいい事を
したかっただけかもしれない

今のうちに
逃げなきゃ



おじさんと
目が合いました
こんな事をしているのか、と
怯えているように見えました

多分私たちは同じ気持ちで
抱いたままお互いに遠慮していたんだ…

私だって…子供なのに
セックスに興味を持ってしまったから…

一緒に悪いことをする



私は入口を開けて
おじさんの方に向き直りました

きつと服を着たままだから
痛くて苦しかったんだ…

だって教科書に載ってるセックスの説明は
男の人も女の人もハダカになってたから…

ハーフパンツを脱いで
セックスする意思を
アピールしました

そして仲直りするための笑顔を作って
おじさんへ話しかけました

「今度はちゃんと
気持ちよくしてくださいね」

体操服も脱いで
セックスの準備を進める



男の人にじつと見つめられている前で
服を脱ぐのは恥ずかしいです

ハダカにならないといけない、と
分かっているもやっぱり…

「あの…私も脱ぎますから
一緒にハダカになって
くれませんか？」

おじさんは快く頷いて
服を脱いでくれました

セックスの準備は整いました
もう後戻りできません

おじさんの方に
歩いていく



私…

この人の

セックス道具になるんだ

おじさんの上に
またがる



「はあ…あつ…あつ
入るっ…」

「あとちょっとで入ります
待ってください」

「入れてください…
自分で出来ますから…」

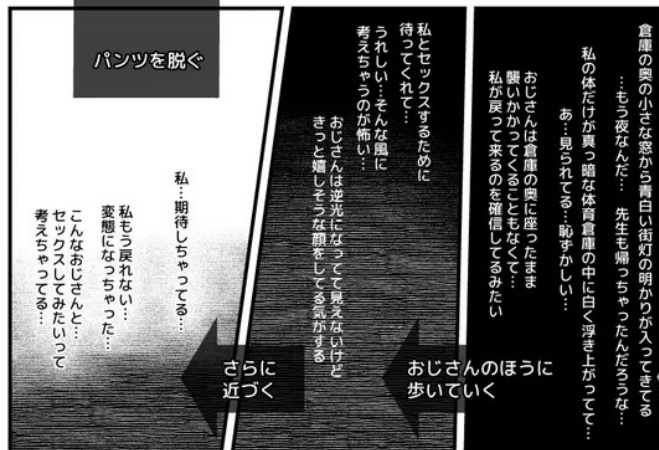
「はあ…
はあ…」

おじさんは何もしてきません
何を考えているんでしょうか
真っ暗で表情は見えませんが
笑っているんでしょうか

さっきみたいに
無理やり入れようと
してこないのは
なぜでしょう…

今すぐ裸のまま体育倉庫を飛び出して
誰か助けてと叫んだら
この人から逃げられるかもしれませんが
でも…私は…

お尻をくねらせながら
静かに腰を下ろす



倉庫の奥の小さな窓から青白い街灯の明かりが入ってきてる
…もう夜なんだ… 先生も帰っちゃったんだろうな…

私の体だけが真っ暗な体育倉庫の中に白く浮き上がってる…

あ…見られてる…恥ずかしい…

おじさんは倉庫の奥に座ったまま
腰いかつかつてくることもなくて…

私が戻ってくるのを確信してるみたい

私とセックスするために
待っていて…

うれい…そんな風に
考えちゃうのが怖い…

おじさんは逆光になって見えなくて
きつと暗いような顔をしてる気がする

パンツを脱ぐ

私…期待しちゃってる…

私もう戻れない…
変態になっちゃった…

こんなおじさんと…
セックスしてみたいって
考えちゃってる…

さらに
近づく

おじさんのほうに
歩いていく



「あったかい…です、
お腹の…なかが…」

「ちゃんとセックスできて
うれしいです♥」

「私…子供ですけど
ちゃんとお嫁さんになれますよ」

「あはっ…♥」

さっきは痛くて
苦しいだけだったのに
今では胸がいっぱいで…
幸せな気持ちです

子どもと大人でも
ちゃんとセックス
できたんです

やっぱり教科書は
間違ってたんだ！

幸せ…だけど…
これって気持ちいいのかな…？
おじさん…おじさんは私の身体で
気持ちよくなれてる…？

私…この人の
花嫁さんになります
BAD END



苦しい
あつい
のどが渇いて
何も考えられない

またお腹の中に
何か出された
もう何をされてもいいから
放してほしい
まだ
飽きないの...?

早く...
私に飽きて...
BAD END



学校に行くのも大変になってきました
自分の身体に起こっていることも、その理由も、
全部誰にも言えずに隠して過ごしていました
...いっそバシてしまえばよかったのに...
そんな風に毎日心臓を締め付けられながら
今日も何事もなく過ぎていきました

学校が終われば脳目もふらず
赤ちゃんのお父さんに会いに行きました
暗い秘密を共有できる人がいるのが
今の私にはすごく心強くて...

安心を得る代償に
身体を捧げてしまいました
BAD END

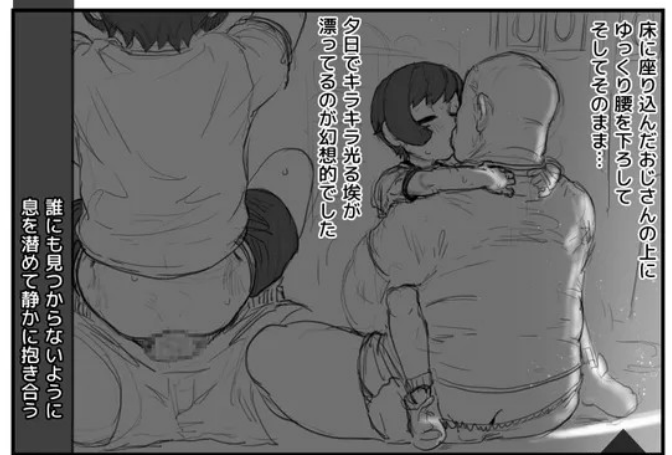


全然知らない人が相手だからこそ
普段の私では考えられないような事を
することができました
甘えん坊の赤ちゃんに
おっぱいをあげながら
犯してもらいました

誰にも言えない願望を
お互いの身体で
一緒に叶えました

おじさんとは
もう会わない...
つもりでした

——おじさんに
会いに行く——



床に座り込んだおじさんの上に
ゆっくり腰を下ろして
そしてそのまま...

夕日でキラキラ光る埃が
漂っているのが幻想的でした

誰にも見つかからないように
息を潜めて静かに抱き合う

数か月後...

最後のページ
-14-



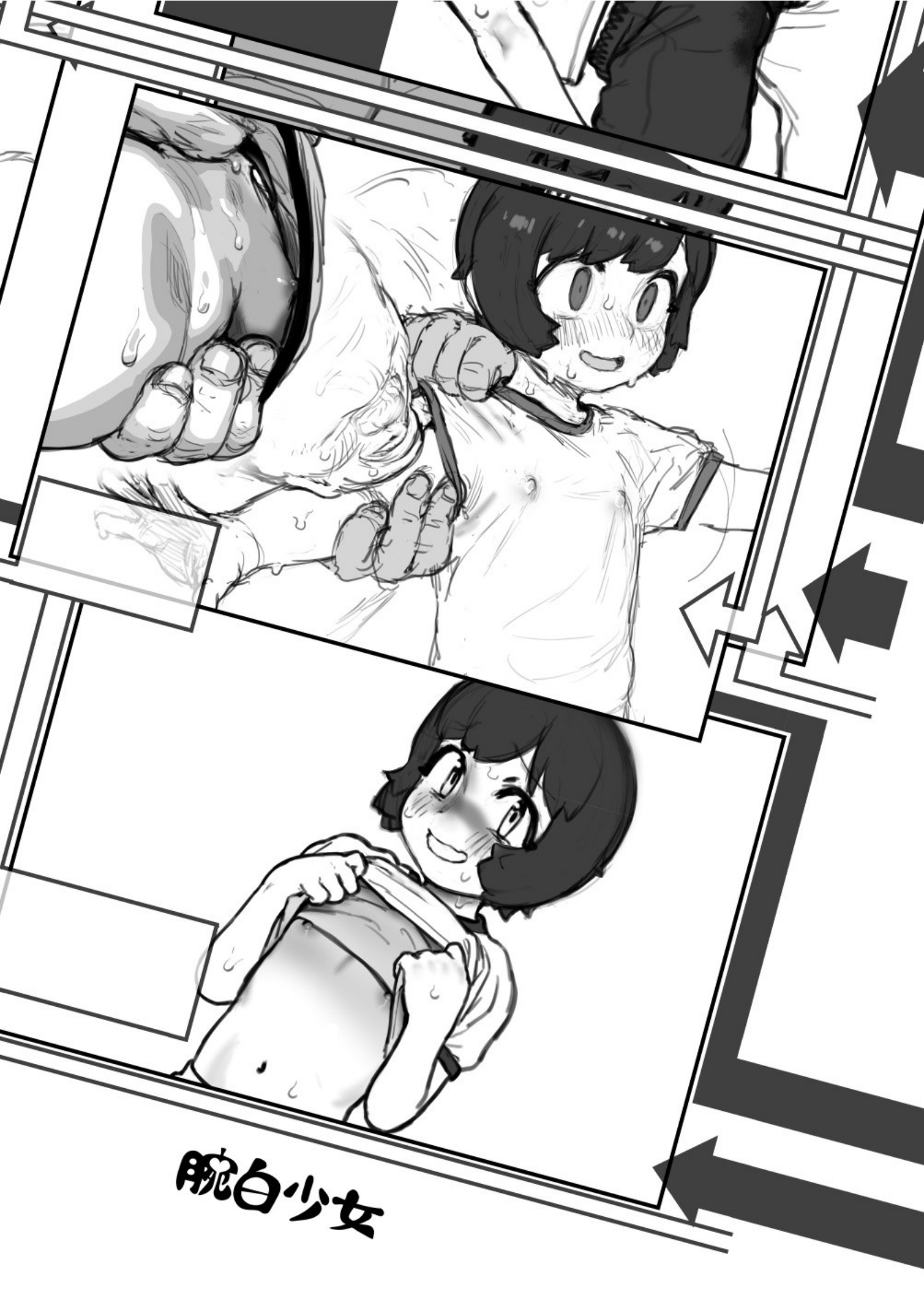
こんなに不安で怖いのに
私一人だけでドンドンしてる

「暴力はやめてくださいね
優しくレイプしてください」



これからどうしよう
お母さんや先生になんて言おう
—私の顔の中は
もうめちゃくちゃでした





腕白少女



セクハラに期待して
わざと
無抵抗な選択肢を選ぶ
ゲームブック

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

脱白少女